

## 日の出町ゴミ焼却灰のエコセメント化工場の環境影響調査

### 活動の背景と経過

東京都の西、日の出町には、都民の多摩川水系水道水の羽村取水口から上流約5kmの森林地帯に東京都の巨大な二つのゴミ最終処分場とエコセメント工場がある。東京都多摩地区（現在約400万人）の家庭や事業所から排出される一般ゴミの最終処分場として、谷戸沢処分場（約60ha）は、1984年から14年間にゴミ焼却灰と不燃ごみが埋め立てられ満杯となった。1998年より隣接した二ツ塚処分場（約60ha）に引き続き埋め立てられている。しかし、ゴミ最終処分場の新たな開設が困難になりつつある社会情勢から最終処分場の延命策として、今まで埋め立てていたゴミ焼却灰を主原料としてセメント化することが計画された。国や都のモデルとして二ツ塚処分場内に工場が建設され2006年より本格稼動を開始した。現在は、ゴミ焼却灰はエコセメントの原料としてセメント化され、不燃物は埋め立て処分されている。

### 活動内容（二期に分けられる）

#### 第一期（1998～2002年）「ゴミ焼却灰の飛散の実態究明」

処分場周辺の異常（処分場風下地区のガン死の全国平均の4倍、日の出町大気中のダイオキシン値0.2～0.3pg-TEQ/m<sup>3</sup>、土壌ダイオキシン値120pg-TEQ/m<sup>3</sup>など）の原因究明として「ゴミ焼却灰の飛散の実態」の調査活動に取り組んだ。

ゴミ焼却灰の飛散のメカニズムとその実態を局地気象や周辺植物調査などの面から究明し公表することにより大気中のダイオキシン値が10分の1に減少した。

住民による監視・調査活動は公害発生の抑止力になることを実感した。

#### 第二期（2003年～）「日の出町ゴミ焼却灰のエコセメント化工場の環境影響調査」

世界のゴミ焼却炉の七割約1700が集中している日本では、大量生産・大量消費の結末として大量のゴミが発生し、焼却・埋め立て処理している。全国で日の出町のように水源地でありながら過疎で人目につかない地域に埋め立て処分をしている。

しかし、全国各地でその杜撰な状態と汚染の実態が明らかになり、人々の不安と追求により新たな処分場の開設が困難なる中で、ゴミ焼却灰のセメント化が処分場延命の国や都のモデルケースとして日の出町二ツ塚処分場内に計画、実施された。

ゴミ焼却灰の中に含まれる膨大な化学物質や重金属を土に埋め地下に垂れ流していたものを、セメント化で排気により大気に放出していくことになっただけである。

現在は、ゴミ焼却灰のエコセメント化工場の環境影響調査を中心に活動している。会員は約120名、協力していただいている専門家や研究者約50名である。

### 活動の方針

- 1 市民・生活者としての視点からの活動
- 2 専門家・研究者の協力や助言を得ながらの科学的な調査活動
- 3 調査活動などの成果や結果の公開・公表

## 日の出町ゴミ処分場の抱える問題

### 1 既に潜んでいる環境汚染の追跡調査

14年間の埋め立てで谷戸沢処分場に埋め立てられた重金属やダイオキシン類は膨大な量になり、周辺土壌や地下水の汚染が始まっている。この汚染の実態を継続的な水質調査等を通して、記録・公表活動に取り組んでいる。

< 谷戸沢処分場埋め立てられた有害物質推定量 \* 焼却灰の成分分析からの推定 >

- ・鉛 3,183t 7,071 億人に深刻な脳障害を引き起こす量
- ・カドミウム 83.26t イタイタイ病の神岡鉱山から神通川流出量 249 年分
- ・水銀 3.19t 新潟水俣病での昭和電工鹿瀬工場からの流出量より多い
- ・ダイオキシン類 6.4kg・TEQ 1,529 万人の半数致死量に相当

### 2 現在進行している環境汚染の調査

ニツ塚処分場内のエコセメント工場は、一日約 300 t の焼却灰を原料として年間 310 日・24 時間・20 年間の稼働を 2006 年より開始した。

膨大なエネルギー・水道水・高額な税金を使い、周辺地域に大気を通して有害物質を放出しながら環境汚染を進行させ、既に植物などに影響が出始めている。

汚染を様々な調査を通して監視・記録・公表し、公害発生を抑制していきたい。

< エコセメント工場の有害物質等の排出推定量 \* エコセメント差し止め裁判資料より >

- ・水銀排出量 14.9kg/年
- ・ばいじん排出量 7.3kg/年
- ・窒素酸化物排出量 52 t /年
- ・水分排出量 156,000 t /年
- ・A 重油使用量 22,300kl/年
- ・灯油使用量 744kl/年
- ・電力使用量 40,110,000kwh/年

### 活動の内容

- ・継続的な調査、記録活動（植物・水生昆虫・野鳥・水質・大気・土壌・気象など）
- ・継続的な工場操業監視活動
- ・地域住民への公表、現地案内や説明、環境問題学習会など
- ・各地のゴミ処分場問題住民団体との情報交換や交流活動
- ・大学環境ゼミ、NGO、助成団体への出前講義、現地案内と説明、提携活動
- ・大量消費生活よるゴミの大量焼却中心の処理システムの見直しの働きかけ

### 活動の課題

- ・科学的で効果的な調査、広報、記録活動の検討と実施
- ・次世代への活動の伝達と継承
- ・市民による科学調査活動の組織化と実践

< 処分場内のエコセメント工場 >



< 野鳥調査 >

